

## 道徳部会

### < 県研究主題 >

生きる力としての豊かな人間性をはぐくむ道徳教育の指導及び評価の工夫・改善

### 提案 1

提案者 森田 綾子 (県央地区)

### < 研究主題 >

豊かな人間性を育む道徳教育～ 家庭との連携を通して ～

#### 1 提案内容

(1) 道徳教育全体計画と、全教育活動の関連を図り、別葉の作成を行った。

(2) 道徳の時間と全教育活動との関連

- ① 生活科の「まちたんけん」(郷土愛)との関連を図った授業を展開し、地域に親しみをもって生活できるようにした。
- ② 生活科の「あしたへジャンプ」(家族への感謝)との関連を図った授業を展開し、保護者への感謝の心や、他者理解を深めることができた。
- ③ 学校のきまりの確認(学活)で「わたしたちの道徳」を活用した。
- ④ 挨拶・当番・手伝いなどの場面において「わたしたちの道徳」を使って継続的に振り返るようにした。

(3) 家庭と連携した取り組み

- ① 「わたしたちの道徳」を持ち帰り、児童が学習した内容にコメントなどをもらうことによって、保護者と児童が学習内容を一緒に深めることができた。
- ② 授業参観では、保護者にグループに入ってもらい、子どもが生まれた時の気持ちなどを話してもらうことで、家族からの温かい気持ちを感じる事ができた。
- ③ 学級通信や懇談会で道徳の学習の内容や、児童が書いたワークシートなどを紹介した。

(4) 教室環境の工夫

- ① 友達の良かったところを見つけられた人の人数を掲示した。
- ② 挨拶・当番・整理整頓などの実践的行動を可視化できる表を作成した。(シールなど)
- ③ お世話になっている人に感謝する「ありがとうの木」を作成、掲示した。

(5) 本時について

学年 2 学年

主題名 家族の温かさ 4 - (3)

資料名 家族の役に立つことを(わたしたちの道徳 小学校 1・2 年)

ねらい 家族の一員として大事な存在であることに気付き、家族の温かい心を知る。

#### < 本時の指導の工夫 >

- ・ 「心がほわっとしたよ」の挿絵だけ見せて、登場人物の気持ちを考えさせてから本文を読む。
- ・ 家の手伝いをした時のことを思い出させその時の気持ちを大事にして発表させる。
- ・ 家族からの手紙に集中できるように静かな雰囲気を作る。手紙から家族の気持ちを知る。

## <本時の成果と課題>

### 成果

- 家族にしてもらってどんな気持ちか、当たり前すぎて感じる事が難しい気持ちに気付くことができた。
- 家族からの手紙から、自分の存在価値に気付くことができた。

### 課題

- 家族に感謝することはできたが、手伝いを頼まれたときにするのではなく、意欲が継続するように働きかけていきたい。
- 授業の中で学習活動がたくさんあったので、児童の考える時間が少なかった。

## 2 協議内容

- (1) 「わたしたちの道徳」に保護者からコメントを書いてもらうのはよいことだが、外国籍などの保護者で日本語の読み書きが難しい場合は翻訳をできる人を頼むなどの配慮が必要である。
- (2) 別葉を細部にわたって作っており、丁寧に指導されているのがよくわかる。ただ、どのぐらいの学校が活用できているのか疑問である。別葉も、細部にわたって詳しいものを作れば作るほど、かえって「苦しい」との意見もある。まずは、シンプルで見やすいものを作り、使っていくことが大切ではないか。
- (3) 地域の方をゲストティーチャーとして授業に招くときは、ねらいとずれてしまうことがあるので、ゲストに話してほしい内容を事前に依頼しておく必要がある。
- (4) 「道徳ノート」「成長ノート」など、児童が現在の自分の考えを記録できるものを作るとよい。本時の中ですべての児童が発言できるとは限らない。話すことができなくても考えをもっている児童を見取ることができる。書いたものが蓄積されることで、児童の意識の変容がよくわかる。
- (5) 道徳教育を学級経営の柱にすることで、児童が変わる。児童が相手の話を共感的に聴くようになっていく。そうした道徳の良さを、特に若い先生たちに伝えていかななくてはならない。学年での話し合いなどで伝えていく必要がある。

## 3 まとめ（指導講評も含む）

- (1) 全体計画と別葉が丁寧にできている。学校の全教育活動で道徳教育が行われていることがよくわかる。別葉は各学校でただ作るだけではなく、見直し・改善していくことが大切である。一時の「ブーム」ではなく、ぜひ「文化」にしていって欲しい。
- (2) 家庭との連携はとても良い。つい学校からの一方的な発信になってしまいがちになるが、道徳教育の意義をしっかりと保護者に啓発することが大切。そのためにも授業参観や懇談会は有効であった。
- (3) 授業の中で家族からの手紙を使うのは有効であるが、家庭環境などを十分に配慮する必要がある。
- (4) 地域や保護者からゲストティーチャーを招く場合は、ねらいが薄いものにならないよう、協議にもあったように十分注意する必要がある。

< 研究主題 >
----------

道徳の時間を要として、生命を尊重する心を育てる道徳教育
-----------------------------

## 1 提案内容

## (1) テーマ設定の理由

道徳教育は教育活動全般で行われるが、要となる道徳の時間を自己を見つめる有意義な時間にしていくことが、道徳教育の充実につながると考える。日頃の児童をみて、自分も他者も命あるすべてのものを大切にする心を育てる必要性があると感じる。また生命を尊重し大切にするという心情は、すべての行動の基本となると考え、「生命尊重」の授業を設定した。

## (2) 道徳の時間の充実に向けて大切にすること

## ① 児童が考えていく道徳の時間にするために

ア ねらいの明確化⇒児童が考えやすくなるようにする。

イ 1時間の中での変容を捉える工夫 ⇒導入・終末での価値観の変容が分かるように関連付けた発問をする。

ウ 発問の工夫⇒問い返しをしながら、児童のくわしい考えを引き出す。

## ② 道徳の時間での気づきなどをこれからの生き方につなげていくために

ア ワークシートの工夫⇒児童の考えを整理し、まとめる。

## (3) 研究の成果と課題

## ① 「児童が考えていく道徳の時間にするために」に関して

ねらいを明確化することで、様々な価値についての意見がでる中でも「生命尊重」に焦点を当てて話し合うことができた。ただ問い返しをする中で、児童の考えが広がりすぎてしまったため、さらにねらいとする価値に迫れる発問の工夫が大切であった。また、児童の生命に対する捉えが、どうしても否定的になってしまったので言葉の使い方にも改善の余地が残った。

## ② 「道徳の時間での気づきなどをこれからの生き方につなげていくために」に関して

自分の考えをいきなり文章で書くのではなく、表情や絵を書くところから始め、徐々に文章に移行していったため楽しんで取り組む児童が多かった。また、自分の考えを書くことや互いの意見の良さを児童同士が認められる雰囲気もでてきた。ただ、用意したワークシートで、児童の考えを狭めてしまうところもあった。

## 2 協議内容

## (1) 質疑

○授業の流れは伝わったが、指導案はどのように計画したか？また主発問はどこにあったか？  
⇒実際の授業とほぼ同じような計画をしていた。主発問に関しては、「小さな体にどんな力がつまっているのかな」の記述をとりあげ、児童に考えさせる計画でいたが、その時の児童の意見に流された部分があったのでその点の掘り下げが甘くなってしまった。

○ねらいと主発問の関係性が弱いように感じる。「ハムスターの赤ちゃん」の資料からは命の強さが読みとれる資料なので、他者の喜びについて考えるのはむずかしいのではないか。

⇒指摘の通り、計画が甘い部分があったと思う。ただ自分の学級をみて、できるかぎりのことはやった。

## (2) 参加者による「生命尊重」の実践

- 生活科との関連で児童の生まれたときの同じ大きさ・重さの人形(ミニ〇〇ちゃん)を作り、実際に世話をしてみる活動を通して、命の大切さを感じる授業を行った。学習した児童だけでなく、他学年の児童もやってみたいと好評だった。
- 総合の稲作りで、「生きることは食べること」という目標を掲げ、食を通じて命の大切さを考え、命の力強さを植物から学習した。
- やり方は様々あると思う。その中でまずは学校で作成した全体計画に沿って、計画・実践することが大切だと感じる。低学年ならモルモットなどの小動物との関わりを通して、道徳の授業を行っていくことがより良いと考える。

## 3 まとめ

### (1) 全体計画について

学校全体で計画的・意図的に行うことを意識していることがよく伝わるが、注意しないと、内容が盛りだくさんになり視点がぼやけてしまう可能性がある。どこに重点をもってきて、学校全体で同じ意識を共有できるかが、大切である。

### (2) 1時間の内容について

生命尊重という広い枠の価値観で捉えてしまうと、ぼやけてしまう。大切なことは教員がその授業にどのような価値観をもって臨むかである。指導観・児童観・資料観の3つの価値観が大切だと言われているが、生命尊重のどの部分を狙い、どのように資料を選ぶのかという点に注意が必要である。

### (3) 評価としてのワークシート

ワークシートと言っても、とにかく用意すれば良いというものではない。児童の自己理解がどのように変容したのか、見取ることでできるワークシートを用意する必要がある。教員のためではなく、児童のためになるものを作ると良い。

## 4 全体を通してのまとめ

### (1) 今日の会に関して

事前の打ち合わせの際に、授業者より「授業に内容を盛り込みすぎた」と反省があったが、話し合いの中で参加者より同じような指摘があり、有意義な検討ができたと思う。ワールドカフェでは様々な地区の実践が話されており、役立つ情報が得られたのではないかと考える。

### (2) 今後の道徳に関して

間もなく教科化されるが、まずは授業の実践が根本にあると思う。今日の参加者は授業の実践を積んできた先生が多いが、そのような先生方の思いや指導を活かして、いかに学校組織で進めていけるかが今後の鍵になると考える。内容項目の重点化は学校独自に決定していくので、組織で取り組み、より良い形にしてほしい。